六
号発行者／学校法人 吞龍愛育会
香竜幼稚園栃木県佐野市大祝町2312
TEL 0283(22)0129編集責任者／小林研介
保護者会広報

印刷所／荒畠印刷所

余すところあと8年で21世紀、そのカウントダウンはもう始まっています。今年の卒園生は中学生2年生。そう思うと、今まさに21世紀を担う子供たちをお預かりしているのだと気の引き締まる思いがします。創立38年を終え、香竜幼稚園も多くの保護者の皆さん、地域の皆さん手で育てていただきなあということが率直な思いです。私もこの職について10年の歳月を経、幼稚教育の楽しさも分かり始めとともに、責任の重大さをかみしみているところであります。よい意味での意地を持つた熱心な教職員の協力を得、少しづつではありますかが理想とする園に近づいていると感じております。昨年から今年にかけては関東地区の教員研究大会で、篠崎、内田、竹沢教諭がそれぞれに立派な発表をこなし、参加者や助言の先生からお褒めの言葉を頂きました。また、園長はご承知のとおり、日本の幼稚園の代表として、児童教育の振興と保護者の経費軽減のために文字どおり全国を駆け回っております。現在国際幼稚教育文化基金の設立に意欲

を燃やし、児童教育の国際化と国際貢献をはかるうとしております。また幼稚園の先生方の、子供を育てる使命と生きがい、様々な苦心の姿を明るく描くテレビドラマ仮称「幼稚園物語」の制作も予定しております。将来当園の先生からスターが出るということもあるが夢ではありません。なお、出生率の低下を危惧した、経団連のトップの方々との会談とますます忙しい日々が続くもようです。香竜幼稚園は園長の仕事に見られるようなそんな大きな視点と、定期的に開かれる子供相談室に代表されるような、個々を大切にしきめこまやかな視点を同時に持ち合わせていきたいと考えています。夢なくしては物事は成せません。足元を謙虚に見ずして進歩がないからです。そんな折、よいチャンスでありますので21世紀の香竜幼稚園をイメージして見ます。

2001年の香竜幼稚園

お堂の保育室は香竜幼稚園の象徴として外側はある雰囲気を残しながらも内装はすっかり近代的に改築され残っています。その回りの保育室はゆったりとしたスペースと木の感触大切にして美しく新築されています。一部屋づつが個性を持ち違う顔を持っていています。どこからも外出され中庭や竹藪にとつながります。桃や梨、栗にビワ、キ

ーユーに葡萄と果樹園が続き四季折々の味覚や花を楽しめます。部屋には子供の絵や作品はもちろん内外の作家の絵や彫刻がある収納庫に美しく置かれなが



行事や保育に対する保護者の参加は20世紀に引き続き伝統とされています。夢なくしては物事は成せず、足元を謙虚に見ずして進歩がないからです。そんな折、よいチャンスでありますので21世紀の香竜幼稚園をイメージして見ます。

保護者の部屋でもできそそこでお茶を飲みながら自主的なサークルや、井戸端会議ができます。子供相談室は現在のまま、さらに子供情報室を開設し、医学情報から、子供用品情報まで集めて手軽に利用できます。

21世紀幼稚園考

副園長 小林研介

保護者会活動を通じて思うこと

保護者会会長 加藤敏子

保育のあり方は現在と大きな変化はありませんが、子供達の合奏や合唱など音楽の分野での出来が目立ちます。陶芸釜を利

用し（来年購入します）子供達のレピドラマ仮称「幼稚園物語」の制作も予定しております。将来当園の先生からスターが出るということ、親にも当てはまります。おじいちゃんおばあちゃんなり芝生の部分もあります。豊富です。園庭は今より少し広いことを、親にも当てはまります。夏は木陰を作つて子供達の憩いの場所となります。四季の花々が咲きほこる花園のよくな幼稚園がいいですね。

垣先生や今年度研修にきた藤本先生の数も今より増えてさらにはきめこまやかな子供の対応が取れるようになっています。稻垣先生や今年度研修にきた藤本先生のような男性保育者もももとあります。園庭ではダイナミックな活動が盛り上がっています。

行事や保育に対する保護者の参加は20世紀に引き続き伝統として残っています。休日は更に増え、母親はもちろんのことながら、父親の子育への参加は当たり前のこととなっています。

三月に入り、年長の次女は「幼稚園へ行くのは、あと何日かな？」とカレンダーを数えていました。卒園の喜びと、小学校への期待と胸膨らませているこの時期を大切に育ててあげたいなと思います。

思えば、香竜幼稚園に長女が三年間、そして次女も三年間と合わせて六年間お世話になりました。幼稚園にはその子特有の「感じかた」、「やり方」、いわゆる個性をもった子供達が通ってきます。その子供達はそれぞその子特有の態度で生きています。その中で自ら「自主性」をもつて「もの」「こと」「ひと」に取り組んでゆくこと、すなわち自主性を育てる「教育」が大切なのだと思います。それ

がとても上手です。先生方のご指導を受けた子供達は健やかに成長致しました。子供の成長の様子を見ておりました。竹の子がしっかりと大地に根をはり、一筋、一筋、けじめをつけてすぐすくと高く伸びていて、よう思われます。そして、そんな竹の子の根元に心の栄養を施すことが親の役目のような気が致します。心の栄養を日々、おこなうことなく与え続けているお父さん方、お母さん方の集まりが香竜幼稚園の保護者会だと思います。

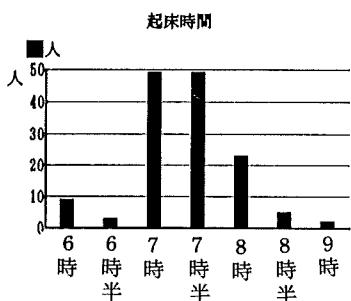
ですから香竜幼稚園の保護者会はいつもも栄養たっぷりで、暖かく、豊かで、そしてすごい力を持っています。その力は保護者会活動のさまざまなもので、運動会も当日になるとどこか園の保護者会だと思いません。

早いもので、今年の保護者会活動も無事に一年を過ぎようとしています。この間会員の皆様には惜しみないご協力、ご支援を賜りありがとうございました。皆様方の栄養たっぷりの愛と先生方の細やかなご指導を頂いた

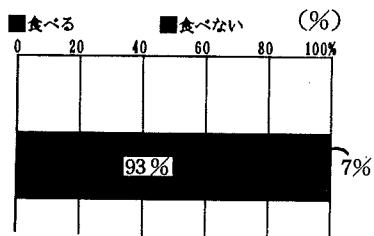
A 生活一般

回答数 148名

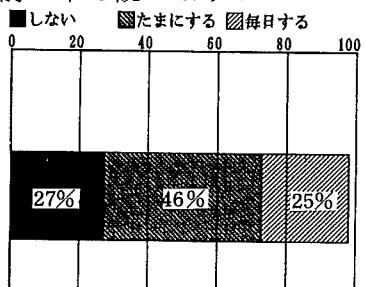
1 何時に起きますか



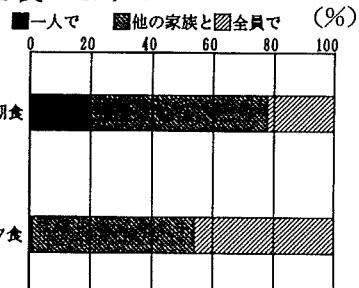
2 每日朝食は



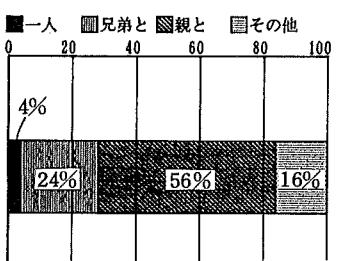
寝る前に本を読みますか



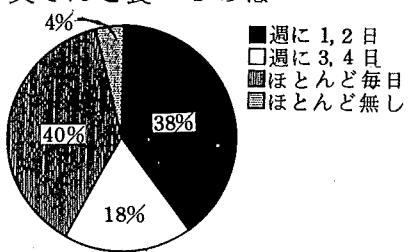
3 誰と食べますか



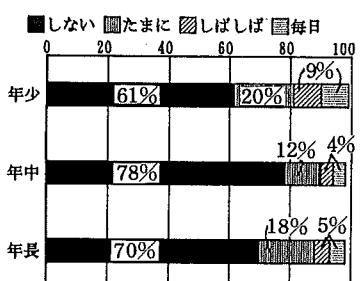
寝る部屋は



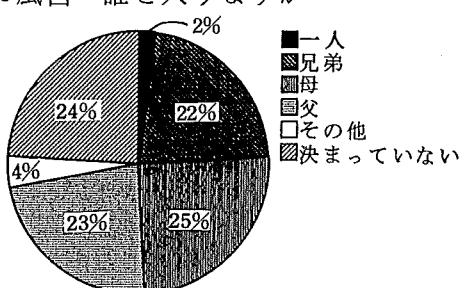
お父さんと食べるのは



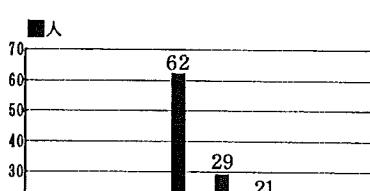
おねしょは



4 お風呂 誰と入りますか



5 何時に寝ますか

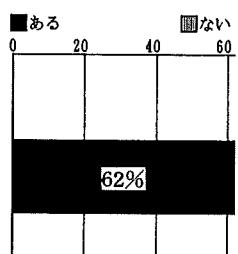


春竜幼稚園

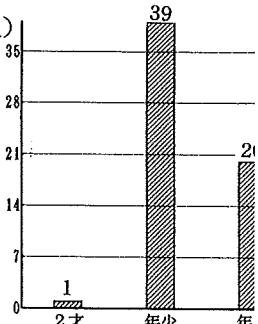
春竜幼稚園の園児たちは家庭でいるのだろうか? というのもまた素朴な疑問でした。この皆様のお骨折で、たいへん貴重な、興味深い結果がまとめられました。

ファミコンについて

1 ファミコンはありますか

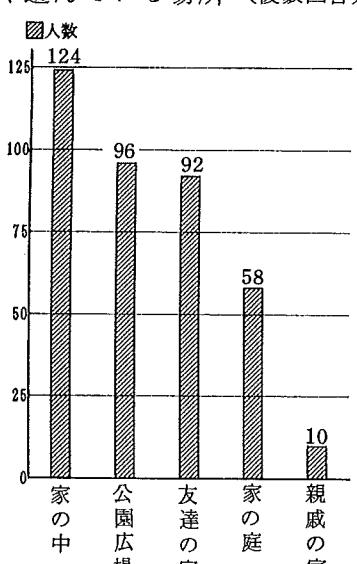


2 いつからはじめましたか

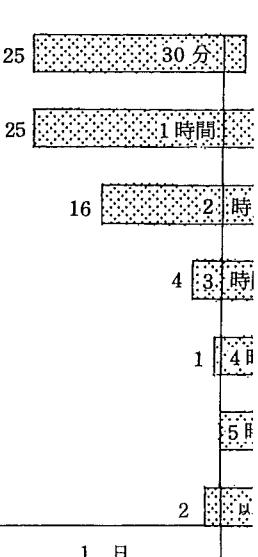


B 遊びについて

よく遊んでいる場所 (複数回答)



どんな遊びをしますか



ファミコンに対し

◎家の中で遊ぶより、外で遊ぶ

◎数字や文字が覚えられて良

私が保育の中で大切にしてきて」と

「心と心のキャッチボール」



川 島 和 代 教 諭

早いもので、私が「保育者」となり七年の月日が過ぎようとしています。四月の「クラスだよりスペシャル版・自己紹介編」の中での私のキャッチボールは、なまっている「心と心のキャッチボール」も七年目のマウンドなども達は私にとって、果てなく大きなピッチャーです。体は小さくとも、未来への可能性を持った変化球で挑戦していく大者ばかりでした。もちろん、時には素直な打球で挑戦していくこともあります。そんな子ども達を受けとめるキャッチナーは、何とも「奥の深い」役割だよみじみ感じている今日このごろです。例えば、「言葉がけ」一つにしても、子ども達は、私にとって、最も達の心を動かすことは、容易なことではありません。保育者が認めたり、誉めたり、励まつたり、言葉をかけたことで、子ども達は受けとめることは、自分自身に腹が立ち、情けない気持ちで涙が後から止まらないでした。

泣いた理由を聞かけたところ、「僕はスプーンが好きなんだ」とボソンと言ったのです。私はハッとしました。実は三学期に入り、お弁当の時間にお箸使いの指導を始めたのです。子ども達も、お箸に対して興味、そして関心を持ち始めたところでしたので頑張ろうとする姿がたくさん見られました。「先生、見て、見て、見て、見える」とうれしそうに喜んでいました。野球で例えれば、「エラー」の状態となるのです。しかし、その影では心の奥で保育者とすれば、心から悲しいと感じ、深く反省しなければならない場面です。私は今年三才児を担任する中で、大きな、「心と心」のエラーをしたのでした。三才児と言

えば、生まれてわずか三年のちびっこ達です。16人のちびっこ達は甘えたり、駄々をこねたり、時にはいたずらをしたり、四方八方から「スーパー変化球」を投げてくるのでした。三学期も落ちつき安定した日々を送り出したある日、一人の子が登園をいやがり、車から降りようとしたのです。目には大粒の涙を浮かべていたのです。「前日までは元気にはしゃいで登園していたのに、何故急にやがりだしたのかしら?」私は見当がつきません。泣きながらもその子をお母さんから預かり、部屋まで連れていきました。しばらくして落ちつきが見られ、教えて、「心と心のキャッチボール」今までの充電期間を得て、この時スタートしたのもかもしれません。

子ども達は受けとめることは、子ども達一人一人を理解し個性を伸ばし、未知への可能性を引き出していくことだと私は考えています。でも、保育者だけが一方的に語りかけているだけではだめなんですね。それは、がら、早いもので一年が経とうがら、早いもので一年が経とうとしても、逆に傷を深めてしまったり、うまく伝わらない場合があります。野球で例えれば、「やっぱり、スプーンが食べやすい」のに。先生わかってくれる先生…。そういうセンスがあります。

「先生」と呼ばれることにちよびり照れくさいなと感じないそんなわけですが私としては、こんな先生になりたいという目標があります。

第三に細かいことも気が配ります。まず第一にセンスのいい先生。例えば、花瓶に花を生けるとしても、バランスやどこに置いたら花が生き生きとするか、子供たちにとって良いかなどと考えられる先生…。そういうセンスってとても大事なことだと思います。

第二にもの知りな先生。先生に聞けば何でも知ってるんですよ。こんなことも知っている先生は、本当に素晴らしいと思います。一生懸命努力していきたいと思います。

「幼稚園の先生になれてよかったです」



田 中 理 恵 子 教 諭

の上に立ち…」という事に夢をもち続けてきた私ですが、いざ現実となると、夢というものはかなつてからがとても難しいもので、実際に現場に入ってみて改めて教師という責任の重さと大変さに気づきました。活動一

歩も、逆に一人の子を苦しめた結果になってしまったのでし
た。

子どもの心を「わからう・気づこう」とすることはとても難しいことです。しかし、「わからう」とするにはとても難しい」という理想と現実が、昔からの夢でした。その夢がようやくかなえられ、念願の「先生」と本当に無我無中で、あつといふことをありました。あの時、あの子にこんな事を言ってあげたことがあります。振り返ってみると、この一年間、子ども達と一緒に生活する中でいろいろな事がありました。今まで「大好きな子ども達に囲まれて憧れの教壇

上に立ち…」という事に夢をもち続けてきた私ですが、いざ現実となると、夢というものはかなつてからがとても難しいもので、実際に現場に入ってみて改めて教師という責任の重さと大変さに気づきました。活動一歩も、逆に一人の子を苦しめた結果になってしまったのでし
た。

子ども達は、日に日に大きく成長していきます。四月に泣いて登園してきた子どもが、今までクラスの友達と楽しく遊べるようになった姿をみたり、困っている友達のために、一生懸命手を貸してあげたり、又、お弁当の包みが一人でできるようになったりと毎日のとても些細な事ですが、そうした子ども達一人一人のさりげなく素敵な瞬間に一緒にいてあげられる事を

嬉しく思うと共に、そんな素晴らしい職業に就く事ができ、先生になれよかったですなあとつくづく思いました。

最後に、四月に十五人の子ども達と幼稚園生活のスタートを切ってから一年間、子ども達に助けられながらもこんな私が一年間、なんとかやってこられたのも暖かく見守ってくださった保護者の皆様と、そして何よりも園の先生方の支えがあつたからこそと深く感謝しております。これからも一年間の経験を生かし、先生方を見習って少しでも先輩方に追いつけるよう努力していくのが、年に年月月と反省したり、失敗してしまつたりしたこともあります。ですが、そんな時本当に「たなかせんせい!!」とそばに飛んできて子ども達の笑顔が何度も暖かく見守ってくださったと思います。

本当に素晴らしい一年間でした。ありがとうございました。